



地域と医療のコラボレーション

ハーモニー

Harmony 

第23号



2012 / May

発行 / 医療法人社団協友会 東大宮総合病院

編集 / 広報委員会

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮 5-18

TEL 048-684-7111 FAX 048-686-3614

<http://www.higashiomiya.or.jp/>

特集

埼玉県がん診療指定病院

東大宮総合病院 院長 坂本 嗣郎

当院が長年目指してきた目標に手が届きました。長きに亘り地域医療を進めて参りましたが、がんの専門医療機関としての認定を受け更に高いレベルへと前進したいと思えます。これまでの取り組みとして、がん治療に精通した専門医を集め、胃がん、大腸がん、乳がんの診療を進めて参りましたが、今年から肝臓がんの専門医も招聘して体制を整えていく予定です。がんの集学的治療には緩和医療が欠かせませんが、当院では既に緩和医療専門医や緩和ケア認定看護師が働いており、がん相談支援室として様々な患者様の相談や悩みに応じております。

今後はがん診療指定病院としての体制を整えるべく院内にがんセンターを設置し、5大がんの診療を強化することです。放射線治療部を新病院と共に発足させ、手術療法、化学療法、放射線治療の選択が

当院で可能となります。また、緩和ケア病棟（ホスピス）も設置し、終末期医療にも対応する予定です。診断部門としては最新のCTやMRIに加えPETを導入し、診断の精度を上げていく予定です。さらには、地域の開業医の先生方とも連携を取り、症例検討会や情報交換会を催し、当院が利用しやすく信頼のおける病院であるよう努力していきたいと思えます。

最後に、治療成績を上げるための医療スタッフの研鑽と最新設備の導入を続けていかなければなりません。現在の医療の最難関であるがん治療に真っ向から挑戦し、市民の皆様が安心して治療を受けられる病院となるよう職員一同頑張りたいと思えます。よろしくお願いいたします。



指定証

名称 医療法人社団協友会
東大宮総合病院
所在地 埼玉県さいたま市見沼区
東大宮 5-18-3

上記医療機関を埼玉県
がん診療指定病院に指定
します

ただし、平成28年
3月31日までとします

平成24年4月1日

埼玉県知事 上田 清司

埼玉県の拠点・指定病院

(H24.4.1 現在)

○都道府県がん診療連携拠点病院（国指定）

埼玉県立がんセンター

○地域がん診療連携拠点病院（国指定）

さいたま赤十字病院 さいたま市立病院
川口市立医療センター 済生会川口総合病院
国立病院機構埼玉病院 深谷赤十字病院
春日部市立病院 獅協医科大学越谷病院
埼玉医科大学総合医療センター
埼玉医科大学国際医療センター

○埼玉県がん診療指定病院（県指定）

東大宮総合病院
埼玉社会保険病院 戸田中央総合病院
上尾中央総合病院 狭山病院
秀和総合病院 行田総合病院
防衛医科大学校病院 越谷市立病院
朝霞台中央総合病院 小川赤十字病院

診療科だよ

肝胆膵臓外来

4月から外科部長に就任しました金達浩です。私はこれまで国立がんセンター東病院および前任地の東京女子医大東医療センターにおいて、膵がん、胆道がん（胆嚢、胆管、十二指腸乳頭部）、肝がんの治療を専門とし、数多くの高難度肝胆膵手術を手がけて参りました。

昨年6月には、肝胆膵手術における高度の技術を認定する世界で初めての制度である『肝胆膵外科高度技能専門医』に認定されました。この資格は、高難度手術の執刀から終了まで全てを記録したビデオを技術審査する大変厳しいもので、第1期認定者は全国で12名のみ、関東地方では私を含め2名のみです。安心して手術をお任せいただけるものと考えております。

また、手術以外にも抗がん剤治療や免疫治療についての学会、論文報告も多数行っています。外科的切除・内視鏡的処置・抗がん剤などあらゆる手段を駆使し、患者様に最も適した集学的治療を行うことが可能です。専門知識と誠意をもって診療にあたらせていただきます。



金 達浩 さん たつひろ

外科 部長

日本外科学会指導医・専門医・認定医
日本がん治療認定機構がん治療認定医
日本消化器外科学会専門医
日本消化器外科学会消化器がん治療認定医
日本肝胆膵外科学会評議員
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
臨床研修指導医

臓器について

① 肝臓

腹部の右上、肋骨の下に位置する大きな臓器です。いろいろな物質の分解・代謝・解毒・排泄に関わり、人体にとって重要な物質の合成を行うなど、体内の化学工場と言える重要な臓器です。脂肪の消化を助ける胆汁を産生します。

② 胆道

胆管

文字通り、胆汁が流れる管です。肝臓から十二指腸につながっており、途中で膵臓の頭部を通ります。

胆嚢

胆管の途中につながっている袋状の臓器です。胆汁を一時的に貯留し濃縮します。食事の際には収縮し、貯蔵しておいた胆汁を十二指腸に排出します。

③ 膵臓

十二指腸に存在する「乳首」のような突起で、胆管と膵管が合流してここに開口しています。胆汁と膵液の出口です。

④ 十二指腸乳頭

十二指腸につながる、胃の裏側を腹部の左端の脾臓まで伸びる左右に細長い臓器です。血糖の調節などを行うホルモンを分泌する「内分泌」と、強力な消化液（膵液）を分泌する「外分泌」という二つの機能を持ちます。

こんな症状がでたら...

- ・黄疸（肌の色や眼の白目の部分が黄色くなる）
- ・尿の色が濃く褐色になる

- ・便の色が白っぽい
- ・腹痛 上腹部（みぞおちのあたり）、お腹の右上、左上、おへその周りに痛みがある。または重苦しい感じがある。
- ・背部痛 背中の中や左右に重苦しい痛みがある
- ・食欲がない
- ・何となく身体がだるい
- ・発熱
- ・体重減少
- ・血液検査で肝機能が悪い、胆道系酵素（ALP、γGTP）が高い
- ・急に糖尿病と診断された。または今まで治療していた糖尿病が急に悪化した

などの症状がある場合には、肝・胆・膵のがんの可能性がありますので、外来受診をお勧めします。

治療について

肝・胆・膵のがんに対しては、根治的治療として外科的切除が第一に重要です。肝胆膵領域の手術は、消化器外科の中でも最も高度な技術を必要とするため、この分野を専門とする手術経験豊富な外科医が担当することが求められます。さらに再発の抑制のために手術後の抗がん剤による治療などを組み合わせた「集学的治療」が行われます。また、切除以外の治療方法を選択する場合も、同様に抗がん剤投与、内視鏡的処置などの集学的治療が必要です。当院では肝胆膵外科高度技能専門医に認定された外科医に加えて、2名の外科学会指導医・内視鏡外科技術認定医を含む5名の外科医が手術治療を担当します。さらに化学療法、内視鏡的処置その他についても、8名の消化器内科医、3名の肝臓専門医など非常に充実した体制があり、外科、内科が毎週合同でカンファレンスを行って治療方針を相談し、密接な協力体制のもとに治療にあたります。治療については、受診いただいてから十分にご説明・ご相談して進めて参ります。セカンドオピニオンについても受け付けておりますので、どうぞご相談ください。

より良い病院を目指して

■□■ 医療クラーク室の取り組み ■□■

近年、わが国では病院勤務医の過重労働が問題となっています。医師の診療以外の事務作業は2～3割を占めるといわれており、当院では医師が診療に専念できる環境を作るため、平成21年1月に医療クラーク室を設置しました。

当部署では医師の事務作業の負担軽減を目的とし、スタッフ6名で16診療科の診断書等の作成補助や院内がん登録、NCD（National Clinical Database）の症例登録を行っています。

平成23年9月28、29日の2日間にわたり、第37回日本診療情報管理学会学術大会が開催されました。会場の福岡国際会議場には全国から約2千人が集まり、たくさんの方々の前で、当部署の取り組みを発表することが出来ました。今後とも、患者様に、より上質な医療を提供出来るよう、医師の支援を行っていききたいと思います。

医療クラーク室 藤原 典子



■□■ 糖尿病療養チーム ■□■

多職種の専門性を活かしながら連携をとり、教育入院・糖尿病教室や外来指導にチームで携わり、糖尿病療養に必要な情報提供や支援に取り組んでいます。



患者様対象の糖尿病教室

※) 患者の権能を認め、その人自身が持っている資源を再発見できるように援助すること。

日本の糖尿病患者数は、年々増加の一途をたどり、現在糖尿病とその予備軍といわれている人数は約1620万人といわれています。糖尿病患者の治療の成否は、患者自身が必要性を認識し治療を十分理解した上で、生活の質を落とさず継続できることが目標となります。そのため療養指導が治療そのものになり得るといっても過言ではありません。

当院では平成23年9月より、近隣医療圏における糖尿病治療への継続的な寄与を目的に、糖尿病療養チームの活動を開始しました。主な活動内容は、糖尿病教室の開催と友の会の設立です。目的とする良好な代謝コントロールを維持し合併症の発症を予防し健常人と変わらぬ社会生活を可能にするを目的とし、患者様を[※]エンパワーメントできるよう、多職種チームでアプローチしていきたいと思っています。皆様のお力添え宜しくお願いします。

看護部 主任 鈴木美華子



病院スタッフ対象の外部講師による運動療法講習

■□■ 平成24年度新入職者 ■□■

今年度は29名の新入職員（薬剤師2名、放射線技師1名、検査技師2名、理学療法士3名、作業療法士4名、臨床工学技師2名、管理栄養士1名、看護部9名、医療支援部5名）が研修を経て、各業務にあたっております。まだまだ未熟な新入職員ですが、東大宮総合病院の一員となって頑張りますので、よろしくお願い致します。



さいたま市住民健康診断、受付中！

衣替えの季節になりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年度もさいたま市の「特定健康診査・がん検診・国保人間ドック」を4月27日（金）～翌年3月9日（土）までの間実施いたしております。一年に一度、ご自身の健康状態をしっかりと把握し、「健康の保持・増進」に役立ててみてはいかがでしょうか。



ここで少しでも、「健診」の必要性をご紹介させていただきます。現在、年間に約100万人の方が亡くなっており、その30%にあたる30万人の方が、ガンで亡くなっています。男女を合わせた死亡原因のトップ3のガンは、「肺・胃・大腸」という結果が出ており、もはや定期的な健診は欠かせません。今までに各種健診を受診されたことがない方も多数いらっしゃると思いますが、今年からぜひ受診されることをお勧めいたします。

【住民健診受付時間】

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前9時～11時	●	●	●	●	●	●
午後2時～4時	●	●	●	●	●	△

※日曜祝日 休み

最後に健診や人間ドックについて、ご不明な点やご質問等ございましたら、お気軽に当院の健康管理課までお問い合わせください。

ご予約・お問合せは
健康管理課までお電話ください **048-684-2278**



当院の 数字アラカルト

平成23年度の重点目標は、『救急車の受入』と『他機関からの紹介患者受入』を強化することによる地域基幹病院としての役割を果たすことでした。まず、救急車の受入件数は、麻酔科救急担当医が救急搬送患者の窓口を一本化することにより受け入れ態勢の強化ができ、前年比10.3%UPとなりました。紹介患者数に関しても、医師の増員もあり10%UPとなっています。その他、23年度に特に伸びたものに内視鏡検査件数があります。消化器内科常勤医が増員され、充実が図れたことも影響し、前年対比17.5%UPの792件増の5,311件を行うことができました。

外来患者数	680.0人/日
入院患者数	286.4人/日
在院日数	17.4日
ベッド稼働率	90.4%
救急件数	327.8件/月
手術件数(全麻・腰麻)	79.8件/月
心臓カテーテル検査件数	29.5件/月
内視鏡件数	475.0件/月

(平成23年1～12月平均)



編集後記

4月より7名の常勤医師が入り、診療の幅も一段と広がります。埼玉県がん診療指定病院として、地域に貢献できる病院を目指し職員一同取り組んで参ります。

医療法人社団協友会

東大宮総合病院

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮 5-18
TEL 048-684-7111 FAX 048-686-3614



JR宇都宮線「東大宮」駅下車
東口より徒歩3分